

災害ボランティア活動報告(No.26)

活動場所: 東京都大島町元町近郊

活動内容: 2013 年 10 月の台風 26 号による土砂災害を受けた大島元町近郊にて、災害直後から一般立ち入り禁止地区で活動されている NPO 法人 DSP 災害支援プロジェクトさんの活動に参加し、土砂、流木、瓦礫、家財道具等の搬出を行いました。

参加者: メンバー 5 名(芦澤潤一、岩瀬清、榎戸孝行、大川浩明、時岡真治)、DPS 災害支援プロジェクト一般参加者、地元消防団、計約 40 名

行程: 11 月 22 日にメンバー 5 名が東京竹芝客船ターミナルに集合し、22 時発の夜行大型旅客船にて伊豆大島へ出発しました。翌、11 月 23 日朝 6 時に大島岡田港着、DSP スタッフ、同参加者と合流しバスで大島元町港へ到着。5 分ほど歩くと土砂災害を受けた家屋が見えてきました。※写真左上は大島元町港乗船場より内陸側、左下、右は土砂災害を受けた家屋(下流部)



1 日目の活動は 8:30~16:00、一般立入禁止区域での作業でした。交通インフラを復旧する為に自衛隊が道路わきに除けた土砂や流木、解体後に出た木片や家財道具を集積場まで運びます。5mほど積み上げられた瓦礫類は崩落の恐れがある危険な現場でしたが、一つずつ手作業で取り除いていきました。しっかりと造られた木造住宅の柱、壁、流木などが多数あり重量もさることながら運び出せる大きさに解体することも困難で、チェーンソーやバールを使用して何とか持ち上げられる大きさにして運びだしました。冷蔵庫、食器、椅子などの生活用品や風呂、ガラス、シャッターなど、とても力のいる作業でした。人数も多かったことから、作業終了時間にはほぼ完了しました。瓦礫が積み上げられた場所の下は未搜索であるため、私たちの活動後に重機が入り搜索活動の準備をしていました。



※高く積み上げられた瓦礫を手作業で撤去しました。(写真：DSP ホームページより)

別のお宅では倒れかかっている家の中から家族が大切にしていた物を出して欲しいという依頼があり、参加者のうち数名が作業を行っていました。ご家族の写真が多く見付き、屋根の重みで開かなくなったクローゼットには衣類や日用品もあり、空いている隙間から少しずつ取り出すことができ、ご家族の方が懐かしそうに手にとられていたそうです。

1 日目の活動後は、大島最南端の波浮(はぶ)港近くにある DSP の施設に宿泊しました。このあたりは石畳や頑丈そうな家が多く、沖縄を思い起こさせる町並みがありました。夜は東北に負けないくらい星がきれいでした。



※波浮港の街並みと DSP 拠点。

2 日目は車輛の関係で 7:00 発と 8:00 発の 2 班に分かれて 1 日目と同じ場所へ向かいました。9 時前から 1 日目と近い現場に入りました。活動場所を見て皆驚きました。瓦礫作業はわかっていたのですが、集積場へは大人 1 人分程高低差がある段差を持ち上げて運ばなければなりません。柱、流木などを細かくするチーム、段差まで運び持ち上げるチーム、集積場まで運ぶチームと参加者自ら別れてスムーズに作業が進みました。帰路船便の関係で午前中だけの作業時間であったため、終わるかどうか心配でしたが 2 時間ほどで終わり重機が入れるようになりました。1 時間程度時間が余ったため、近くで解体中の家屋廃材撤去作業を手伝いました。



※2 日目の瓦礫撤去作業。(写真左：DSP ホームページより)

災害発生より 1 か月程度経っていますが、幅 200 メートル程の土石流の爪痕を見て、まだまだ人手が必要であると感じました。大島社協では、ニーズが収束傾向にあるため個人ボランティアの受入れを止めたそうですが DSP は今後も活動を続けていくそうです。かなり体力のいる活動ですが、また参加したいと思います。

報告者：榎戸 孝行



今回の参加メンバー(大島元町港にて)
左から、

岩瀬 清、
時岡 真治、
芦澤 潤一
榎戸 孝行
大川 浩明
(敬称略)